復職支援における双極性障害の困難性と支援の工夫

医療法人社団　五稜会病院　リワーク ヴィレッジ
○松田慎子・清水陽平・吉村美香・八木こずえ
富永英俊・中島公博

第2回　北海道リワーク研究会
平成23年10月6日

本日のお話

① 事例紹介
- 躁状態によりリワーク中断した事例
- 復職に結びついた事例

② 支援の困難性とそこから導かれた現在の工夫

躁状態によりリワーク中断した事例

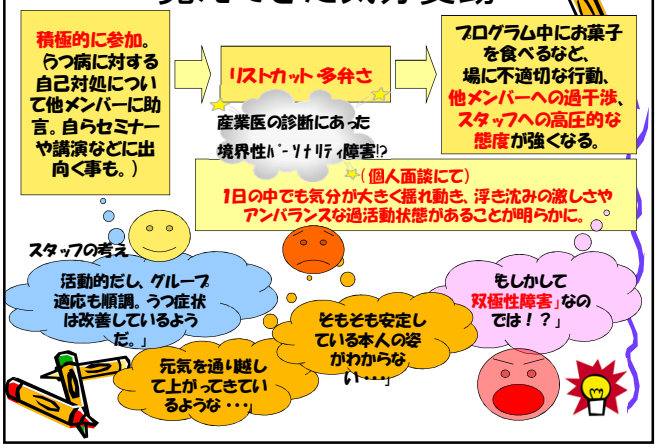
- Aさん（40歳）：女性　地方公務員
- 夫と子ども2人の4人家族
- X－3年4月頃から不眠を生じ、内科で睡眠薬を処方。
- うつ症状の軽快と再燃を繰り返し、X－1年7月には当院ストレスケア病棟に入院（約2週間）。
- その後も2週間～1ヶ月の短期入院と再発を繰り返す。（入院計5回）
- 当初の診断は「反復性うつ病性障害」。産業医からは、“境界性ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ障害疑い”の診断も。

入院～リワーク開始まで

- 5回目の入院中に主治医からオーダー。
- 面接時、復職意欲は高く、受け答えも明瞭。
- 今回が3度目の休職。復職への強い焦りがあり、『家事よりも仕事。二度と休職したくない。』と話す。
- リワーク見学前に本人が退院を強く希望。
- 毎回“情報を得る間もなく短期間で退院”してしまう。本人は「問題ない」というので、主治医も病棟Ns.も関係性を深めにくい。

→情報不足のままリワーク開始となる。

見えてきた気分変動



遅かった情報収集・・・

- リハビリ出勤の計画が進む中で、活動量増加。
- スタッフの中に『双極性障害では』との考えが確信に向かい主治医に報告。
- 抗うつ薬→気分調整薬に変更するが、勢いは止まらず軽躁状態は急激に悪化、スタッフへも攻撃性が向けられる。
- 主治医から夫と本人に双極性障害の診断変更を説明し、入院も促すが、「この程度の浮き沈みがあるのは以前から。特別変わりない。」と納得されず。
- リハビリ出勤の延期を提案→『私の本当の姿を知らないくせに!!』と大声で怒鳴り、転院を希望。

リワークも中断となる。
（通所期間約3ヵ月半）

復職に結びついた事例

- Bさん（37歳）：男性　会社員　　妻と2人家族
- 気分の浮き沈みは学生時代からあった、と自覚。
- X－2年9月頃から、仕事上の負担を契機に気分が沈みがちに。10月、内科にて抗うつ薬を処方されるが、改善見られず、12月に当院を受診。
- X－1年2月上旬より、病院の看護師を口説こうとしたり、上司や近隣の人にけんか腰になって苦情を言ったり、発言が誇大的になる等の症状が表れる。
- 抗うつ薬→気分調整薬に切り替え、躁状態は改善。内的な不穏が強く、一週間程入院。

退院後は、抑うつ状態が続き、自宅療養。

入院～リワーク開始まで

- X年5月になり、主治医からオーダー。
- 面接（妻も同席）では、声のトーンは低目で、発言も少なく、うつ症状が続いている印象。
- 復職意欲は高いが、期限までに復職しないと解雇される、と焦りがある。また、本人よりもさらに妻の焦りが強い（妻はすでに受診し、その後看護師の定期面接にてフォロー）。
- 参加当初は口数も少なく、俯きがちで大人しい印象。
- 双極性障害であるという自覚はあり、医師からの説明や、躁状態のエピソードをグループでも開示。

徹底した気分のｾﾙﾌﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ

○ グループ適応が進むにつれ、ユーモアのある会話や自己表現など、本人の“個性”が表現され始め「リワークが楽しい」と。→ｾﾙﾌﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞは冷静に継続。

○ これまでの働き方を振り返り、自ら躁状態を作り出すような働き方をしていた、と自覚。学生時代に経験した気分の浮き沈みも、“症状”と捉えられたことで、自己理解が深まった、と。

○ リワークに通所している間に、軽躁状態を呈することは無く、リハビリ出勤を開始。復職を果たす。

（通所期間約4ヶ月）

支援の困難性

1：本人に軽躁状態の自覚が無いことが多く、うつ状態がクローズアップされるため、支援者側も双極性障害であると気づきにくい。

2：本人・家族、支援者も、活動性の向上が、抑うつ症状の改善なのか、軽躁状態なのかを判断しにくい。
→適切な介入の遅れ（症状悪化）

3：プレゼンテーション、ディスカッション、スポーツなどのプログラムや自信をつけるようなフィードバックが刺激となり、精神エネルギーを賦活化させるリスクがある。

困難性から導かれた現在の工夫

1、医師との連携（症状悪化サインの特徴・薬効）
2、リワーク面接時の情報収集（躁エピソードチェック）
3、“うつ病”心理教育→“躁うつ病”へ変更
4、リワーク以前の働き方（活動パターン）の振り返り
5、セルフモニタリング（気分グラフ）→スタッフと共有
6、気分の点数（朝の自己報告）
7、アクションプランと振り返り
8、運動制限（必要時）
9、早期家族面接（努力中）